外国人とともに
取り組もう!!

災害対応ガイドブック

まえがき

災害が発生すると、外国人は災害時に使われる日本語が難しくて情報が入手できなかったり、習慣の違いなどにより地域の輪に入れず孤立したりして、不安を感じます。

このガイドブックには、普段外国人と接する機会が少ない方でも戸惑うことなく外国人と共に災害を乗り越えていけるよう、災害時における対応（配慮）をまとめています。

ぜひこのガイドブックを地域での防災訓練や、学校での教材にお役立てください。

このガイドブックが日本人と外国人が同じ地域の住民として、お互いの違いを認め合い災害時の困難を共に乗り越えるための一助になることを願っています。

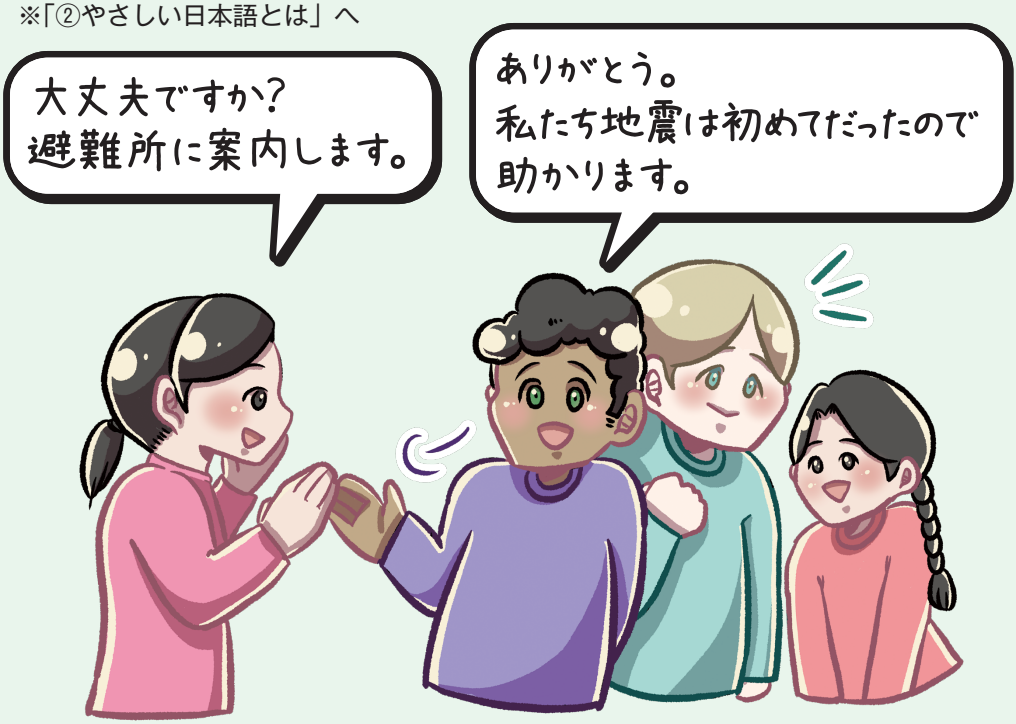
※このガイドブックは、
許可を得て（公財）佐賀県国際交流協会が
制作したガイドブックを基としています。

1 まずは、声掛けから

生まれ育った国によって何を不安に感じるかは違いますが、災害が起こったときに不安に思うのはみんな同じです。最初の一声があると、相手が安心します。

まずは、自分から挨拶しましょう。日本語が伝わりにくいときは、**「やさしい日本語」**※ で話してみましょう。

※「②やさしい日本語とは」へ



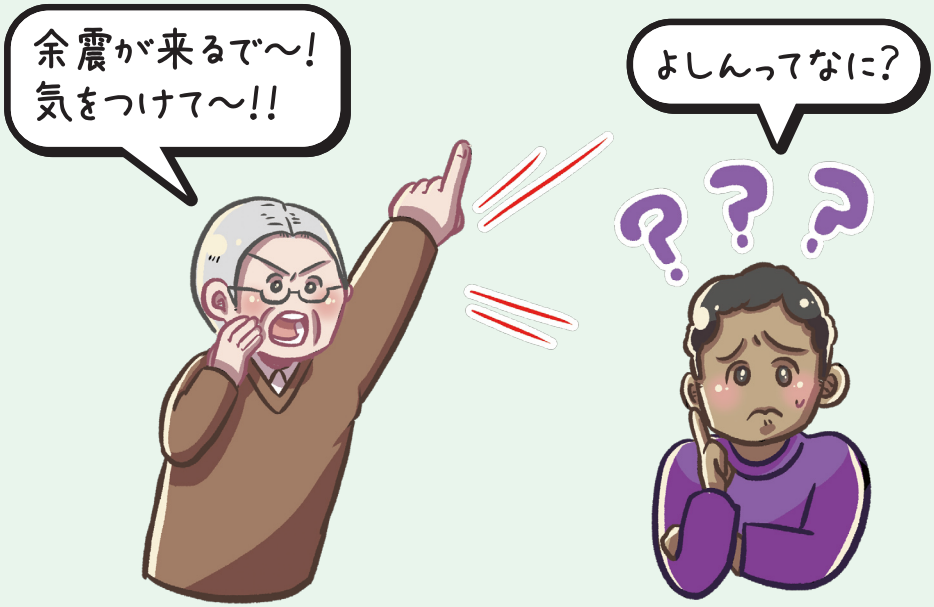
身近に外国人の方が避難していたら

まず身近に外国人の方が避難していたら、「大丈夫ですか？日本語わかりますか？」と日本語で声をかけることから始めてみてください。

2 やさしい日本語とは

普通の日本語よりも簡単で、外国人にわかりやすい日本語です。

子どもでも理解できるような**簡単**で**短い文**を使い、**ゆっくり**話します。ただし、方言は通じにくいです。できるだけ「**です**」「**ます**」でゆっくり話してみてください。



※外国人だからといって必ずしも英語で話しかける必要はありません。
英語を話せない人もいますので、まずは日本語で話しかけてみましょう。

やさしい日本語に「正解」はありません

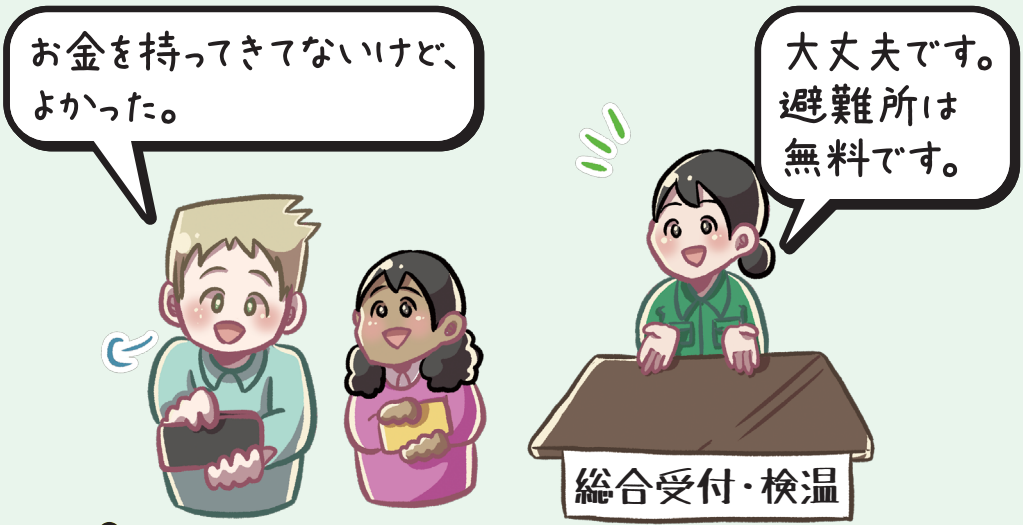
中国の方には漢字のほうが伝わりやすいように、相手によってやさしい日本語は変わります。「相手に**伝わる**ように」と相手のことを考えて、あなたが発した言葉が、「やさしい日本語 」です。

3 避難所はどんなところ

外国人の中には、避難所がどういうところか、どんな支援を受けることができる場所なのか知らない人が多いです。

なぜなら、国によって起こる災害の種類が違うので、避難の仕方も違うのです。まずはそのことを理解しましょう。そして、避難所を知らない外国人に対しては「避難所は無料で誰でも入れる場所ですよ」と教えてあげてください。

避難所の場所が分からないときは、「**おおいた防災アプリ**」や自治体のホームページで調べてみましょう。



避難につなげるには

場所を教えるのも重要ですが、避難所がどんなところなのか分からないと、なかなか避難にはつながりません。

場所と一緒に、避難所がどんなところで、どんな支援が受けられるところなのかも教えてあげましょう。

4 「食事」の違いについて

宗教やアレルギーによって食べられるものは違います。食べることが出来ないものを下の図（FOODPICT（フードピクト））などを使って聞きましょう。好き、嫌いではなく**宗教上食べられないもの**がある人たちがいます。言葉が通じないときは**ジェスチャーや絵を使って**聞きましょう。

食べられないものの例

- イスラム教 ⇩ 豚肉等
- ヒンドゥー教 ⇩ 牛肉等
- ベジタリアン ⇩ 肉類等

食べ物や物資の配給のとき、外国人がたくさん取ってしまうことがあるかもしれませんが、悪気はなく心配だからです。「１人１個まで」と丁寧に教えてあげましょう。

※「配給は１人１個ずつがあたりまえ」は日本人ならではの感覚です。

ハラル食品とは、イスラム教徒の人が安心して食べることが出来る食品の事で、ハラルと認められた食品には、右図のようなハラルマークが印刷されています。
イスラム教の人にとってハラルはとても重要な基準で、この表示を見ることによって安心して食品を購入することができます。

※右のハラルマークは一例であり、国・団体によって色やデザインが異なります。

★食べられないものを、指でさしてもらって確認しましょう。

- ☐ 牛（うし） Beef
- ☐ 豚（ぶた） Pork
- ☐ 鶏（とり） Chicken
- ☐ 羊（ひつじ） Lamb
- ☐ 魚（さかな） Fish
- ☐ 貝（かい） Shellfish
- ☐ 小麦（こむぎ） Wheat
- ☐ 卵（たまご） Eggs
- ☐ 乳（にゅう） Dairy
- ☐ 蕎麦（そば） Buckwheat
- ☐ 落花生（ピーナッツ） Peanut
- ☐ 海老（えび） Shrimp
- ☐ 蟹（かに） Crab
- ☐ 酒（アルコール） Alcohol

（一財）自治体国際化協会（CLAIR）が提供しているFOODPICT（14品目）

5 宗教文化への対応

宗教上お祈りをする人もいるので、**礼拝時間と場所の確保に配慮**しましょう。

例えば、イスラム教の人は…

★一日５回決まった時間に礼拝をします。

★朝４時ごろの礼拝もあるので、（他の人を起こさないように）出入口に近い場所に休んでもらってください。

★礼拝には、手足を清めるためにペットボトル１本ほどの水が必要です。

※出典（一財）自治体国際化協会（CLAIR）HPより

「個人差の尊重が大切です」

他の宗教も同様、教えの解釈やその実践方法は国・文化・個人によって異なります。対応にあたっては、ひとりひとりの考えを聞き、各人を尊重したサポートを行うことが重要です。

6 情報は多言語で

災害時に使う言葉は、普段使われることがあまりないため、外国人が理解するには難しいことが多いです。（避難勧告、高台に避難など）。また、日本語を話す外国人でも文字を読めない人もいます。私たち日本人もそうですが、文字や情報がわからないと、とても不安に思うものです。

掲示板などの表示も、できるだけ多言語で表示をすると、安心につながります。

救護所
けがを なおしてくれる ところ
First Aid
구호소
救护站

▲多言語表示シート
※出典（一財）自治体国際化協会（CLAIR）HPより

上記のように、避難所で使える便利なシートもありますので、ぜひ役立ててください。（作成方法は、「⑦多言語表示シートの活用」へ）

7 多言語表示シートの活用

避難所での掲示板や案内の文章は、ほとんどが日本語で書かれています。そのため日本語が得意でない外国人には難しく、内容が理解できず必要な情報を得られていないという状況があります。

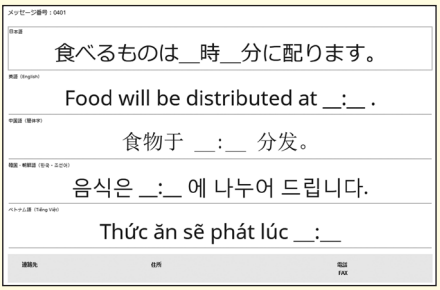
案内やお知らせを多言語化することで、外国人にも必要な情報が得られ、安心感も生まれます。また外国人が避難してくる可能性があると他の日本人に知らせる効果もあります。

あらかじめ多言語化された下記のような表示シートもあります。無料で使うことができるので、ぜひ活用してください。

■災害時多言語表示シート（一財）自治体国際化協会（CLAIR）

◀避難所

※出典（一財）自治体国際化協会（CLAIR）HPより



◀炊き出しの時間

※出典（一財）自治体国際化協会（CLAIR）HPより

作成方法

1. 分類またはフリーワード（文字入力）で例文を検索
2. 使いたい文を選択
3. 表示したい言語数を選択（3言語～10言語）
4. 14言語の中から表示したい言語をそれぞれ選択

←QRコード（こちらから確認できます）
避難所になる小学校や公民館では、いざという時に使えるように、事前に印刷をしてファイリングしておくといいですね。

※対応言語
- やさしい日本語
- 英語
- 中国語
- 韓国語
- タガログ語
- ベトナム語
- インドネシア語
- ネパール語
- タイ語 等

14言語

8 おおいた防災アプリとは

災害時には適切な避難行動をとれるように、気象情報や避難情報など、最新の防災情報を入手することが大切です。

大分県では「おおいた防災アプリ」を運用していて、日本語を含む15言語で防災情報を確認することができます。「おおいた防災アプリ」のことを、地域に住む外国の人にも教えてあげてください。

▼おおいた防災アプリ トップ画面

ダウンロード無料

★ダウンロードはこちら★

【App store】　【Google Play】

主な機能

- 避難情報や気象情報など**最新の防災情報**を表示
- 現在地周辺の**避難所等を自動検索**して**地図に表示**

対応言語

日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語、タイ語、タガログ語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語

（令和3年3月1日現在）

9 外国人も支援者に!!

外国人の中にも、日本語を上手に話す人や、読み書きができる人がいます。そういった方には、日本語・外国語での支援をお願いしてみましょう。

また元気な方や若い方には、避難所での物資の運搬や人の誘導などを依頼してみてもいいかもしれません。

積極的にお願いしましょう

困ったときはお互い様。避難所ではみんなで助け合うことが大切です。周りの日本人にも、外国語ができる人がいないか、呼びかけてみましょう。

⑩ ご近所の外国人とつながっておこう！

普段から地域の外国の人ともつながりをつくるようにしましょう。つながりができた後は、事前に防災や避難の情報を知らせましょう。つながりがあると、いざというときお互いに助け合えます。地域での防災活動やイベント、お祭り、自治会・町内会などで楽しく交流を深めていきましょう。

そうすると、私たちから地域の外国人に、事前に防災や避難について情報提供することもできます。

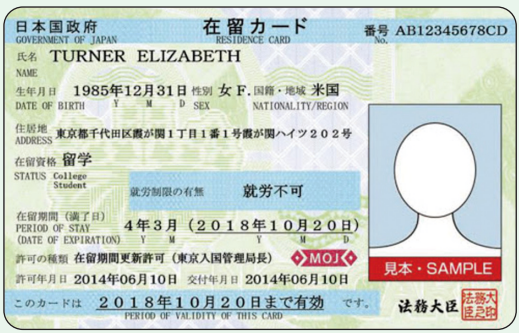
普段から交流できるように

外国人だからといって特別視せず、普段から交流できるように地域で取り組んでいくことが大事です。

11 災害に備えてできること

国によって起こる災害の種類や避難方法が違い、日本人とは災害に対する予備知識が異なる場合もあるので、それに留意した情報提供や支援が必要です。

また、外国人は外出時に身分を証明する「在留カード」の携帯が義務付けられています。避難の際にも「在留カード」を持っていくように声をかけましょう。



※出典 出入国在留管理庁HPより

外国人とともに
取り組もう!!

災害対応ガイドブック

❶ まずは、声掛けから
❷ やさしい日本語とは
❸ 避難所はどんなところ
❹「食事」の違いについて
❺ 宗教文化への対応
❻ 情報は多言語で
❼ 多言語表示シートの活用
❽ おおいた防災アプリとは
❾ 外国人も支援者に!!
❿ ご近所の外国人とつながっておこう！
⓫ 災害に備えてできること

発　行：大分県企画振興部国際政策課
☎097-506-2046

問合せ先：(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
おおいた国際交流プラザ
☎097-533-4021

HP　Facebook　Twitter

令和３年３月発行